

「入居希望者の電話が鳴りっぱなしよ」。女性建築家のアマー・バンダルさん(34)はうれしい悲鳴を上げる。勤務する会社は、市が建設を決めた賃貸狭小アパート(約50戸)の建築設計コンペで入賞した。

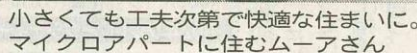
1戸当たりの床面積は最低23平方メートルと日本のワンルームマンション程度。トイレや風呂、キッチンも各室に完備。マンハッタン地区の東部にある市所有地に2015年

人口増と高い家賃 解決策は「マイクロ」

独身者ら注目、工夫で快適

人のうち約300万人は親族やルームメイトと同居を共有している。

実は親戚ではない3人以上の大人が同居を共有するのは違法だ。1部屋を無理に分割して消防法に違反する危険な例も多い。CHPCのサラ・ワトソンさん(34)は「時



代遅れの条例を改正し、
独身世帯が安全で合法的
に住める柔軟な住宅政策
が必要だ」と訴える。

日本人に比べて大柄な人も多いニューヨークにとつて狭小アパートの住み心地はどうか。

機は食卓と兼用だ。インテリアデザイナーだけあって、壁の赤を基調に狭さを感じさせない空間を作り上げた。「20人を招いたパーティーを開いたら8時間たっても誰も帰らなかった。窮屈さは感じない」とムーアさん。

マンハッタン地区では1LDK(ドアマンなし)の家賃が平均3000ドル(約31万円)台。この1年で5%上昇した。市計画局は30年までにさらに60万人が市内に移住すると予測する。住宅は不足し、家賃高騰が続きかねないと懸念している。

ムーアさんのように市民が合法的に住める快適な狭小アパートは、ニューヨークの住環境を変える糸口になるか。時代にそぐわなくなった条例を改正し、市民の期待に応えるかどうかは来年1月に就任する新市長に委ねられることになりそう

だ。

(ニューヨーク・タイムズ)